



## コロナ禍の中小企業



新型コロナウイルス感染症は、ご存じのとおり2019年12月に中国の武漢で感染者が報告されてから僅か数カ月間で世界的な流行となりました。あれから既に2年以上経過しました。日本でも2020年1月15日に最初の感染者が確認されて以後、現在まで6回の波があり、お亡くなりになった方も国内で既に3万人に達しようとしています。歴史を振り返れば、ペスト、スペイン風邪などのパンデミックは終息までに数年を要しており、まだまだ警戒が必要だと思えます。

このような状況に加えロシアがウクライナに対し戦争を仕掛け、世界の枠組みが大きく変動しようとしています。ロシアは「大義無き」戦いをしていていると思っています。

このように、世界情勢が大きく動こうとしている中で、我々中小企業は殆どの企業が苦しい状況に置かれていると思えます。

大企業は大幅な利益アップとなっています。これは為替による恩恵を受けているからと思えます。

各種報道で「飲食店が苦しい。飲食店への援助を拡大しろ。」と大きく取り上げられ何回も報道されていました。しかし我々のようにものづくりを生業とする中小企業に関しては殆ど報道されていませんでした。「日本の働く場は飲食店しか無いのか？」と思うくらいでした。

当社でも売上げの減少に加え、社員の罹患、濃厚接触者の隔離・・・様々な経験をしました。本当に辛い日々が続きました。

当社で最も頭を悩ましたのが電子部品、電材部品の入手です。これは現在も続いています。スイッチング電源の納期1年以上とか、配線用ターミナル端子が納期6ヶ月とか・・・数えあげれば切りがありません。中国上海がコロナウイルス蔓延によりロックダウンされ中国からの荷物が殆どストップしたことが更に拍車を掛けました。本当に何が起こるか解らない恐ろしい世の中になってきました。

私も、今までバブル崩壊、アジア通貨危機、リーマンショック等様々な経済情勢激変をくり抜けてきました。これらは半年から1年程度で立ち直りが可能でした。しかしここ数年のコロナ禍、またウクライナ戦争と大きな要因が重なり全く過去の経験が役に立たない状況になってきています。グローバル化の世界において致し方無いとは思いますが、これを機に、「ものづくりの日本への回帰」を真剣に考える必要があると思えます。様々な「ものづくり」を日本に回帰しなければならぬ時期が来ていると思えます。

最後にウクライナの戦争が早期に収束し、平常な世界に戻ることを切に望みます。

新和商事株式会社 代表取締役 森下 喜郎  
一財) VEC評議員

### 80歳の壁～100歳の壁突破を目指して ～高齢者のビジネスへの関わり方・生きがいについて～

昭和17年4月26日生まれ。やっと満80歳になりました。  
銀行・一般企業に勤続62年、今も現役続行中。



#### 「80歳の壁」読書の経緯及び内容

日経新聞広告欄に「80歳の壁」（和田秀樹著者）を見て自分にピッタリの本と思い、早速、購入。

内容は80歳の壁は高く厚いが、壁を超える最強の方法は好きなことを我慢せず好きなことだけをする。

さらに詳細は ①医者・薬・病院の壁 ②老化の壁 ③ボケ・認知症の壁 ④高い壁を低くするヒント ⑤人生100年の壁を越えていく

#### 読書感想

80歳以降を生き抜くために多々参考になり、私の今の生き方に納得しております。

私は平均寿命ではなく健康寿命（男性約72歳）が大事と考えており、すでに8歳平均を超えており、又、体内年齢も64歳。

10年前に心房細動で2日間救急入院以来、風邪もひかず、熱も出ず、頭痛・腰痛もなく、ゴルフもメンバーコースの月例に毎月参加し続けています。（但しBクラス）

仕事面では銀行から転籍し、長くお世話になっている民間企業に引き続き勤務してきましたが、自分の役割をやり抜いた、やり切ったと考え、本年12月末で退任し、残りの人生を「80歳の壁」を参考に、先輩と7年前に設立した一般社団法人代表理事と親戚の建設会社顧問を中心に世のため、人のために役立つ人間になるよう目指して参ります。

又、介護関係の新しい仕事にも挑戦する予定です。

#### 私の基本理念・人生の生きがい

○世のため、人のために役立つこと ○人生は生ある限り挑戦 ○一生勉強一生青春

最近の高齢者活躍関連ニュース

①テレビ放映されましたが、中小企業の現役女性総務課長は90歳

②日経新聞夕刊に掲載された、エージシュート既に950回以上達成、1000回の大台目標の86歳

③参加したジャズ演奏会で、現役のギター奏者86歳

#### これからの願望も含めて私の楽しい人生設計目標

毎日、検温・血圧・脈拍数を計り記録し、健康状況を把握し続けます。自分のことは出来るだけ自分で行います。

毎日、8,000歩以上歩き、スクワット他軽体操を行います。毎日、読書をパソコンを操作し新聞等を読み世の中の動きを吸収していきます。

一般社団法人・親戚の建設会社を通じて企業のサポート・マッチングをベンチャー精神で最後までやり抜きます。

VEC交流会、座禅の会、各種セミナー等積極的に参加し、外の空気を吸うよう努力して参ります。

ゴルフは月4回のレッスンと月2回のラウンドを実行し、90歳までにエージシュートを達成するよう励みます。

海外旅行（当面、東南アジア中心）を年2～3回程度行けるよう健康面・体力面・気力面を整えて参ります。

以上を実践し、80歳の壁、90歳の壁、100歳の壁を軽々とぶち破り、常に感謝の心を忘れず、悔いのない最良の人生を全うする所存です。

超百寿者(105歳以上)	百寿者(100歳以上)	総人口
6515人	7万9523人	約1億2614万人

2022年4月30日 日本経済新聞(夕刊)より

一般社団法人ベストビジネスセンター  
代表理事 山下 太一郎



## 京都の今とコロナ後のまちづくりの胎動

今、京都の「見える化」が進んでいる。京都駅前・ねねの道・哲学の道・渡月橋・錦市場などにライブカメラが設置され、観光地のリアルタイムの映像を京都市観光協会がWEB配信している。ヤサカ祇園ビルからの祇園花見小路の映像も近日加わる予定である。お手持のスマートフォンで是非覗いて京都の復調の兆しを見つけてみていただきたい。

堅調に回復しているのが修学旅行。おなじみの学校名のステッカーをみかけるとホッとする。5月、6月は通常通り首都圏の中学生が中心で学校数もほぼコロナ前に戻っている。9月以降の秋シーズンもコロナ前と同水準の学校数で推移する見通しだ。家族連れや若年層を中心とした賑わいは休日に限定されていたが、平日閑散とする東山エリアで5月下旬からやっと中高年の方々の姿を目にするようになった。休日と平日の繁閑差を縮めてくれる中高年層の国内旅行の本格化を期待したい。

全国紙の記者さんから困惑した顔で「コロナ後の京都のまちづくりの方向性についてどのように考えたら良いか？」と質問されることがあった。確かに京都駅前の中央郵便局建替計画や宮川町歌舞練場の建替計画など表層だけを見ると本質を見誤るかもしれない。

〈現代版「洛中洛外図屏風」をイメージしたまちづくり〉と考えると理解し易いのではないだろうか。洛中洛外図屏風といえば、織田信長が上杉謙信に贈ったとされる狩野永徳筆の「上杉本洛中洛外図屏風」（国宝）などが有名である。都の四季折々の伝統行事、風俗や町並み、伝統文化の息づく活き活きとした人々の暮らしが細部まで丹念に描き込まれている。

京都が目指すのは整然と区画された平安京ではなく、「洛中洛外図屏風」に描かれるような各町内や地域ごとに活き活きとした進取の気風溢れる町衆の表情豊かな暮らしのなかに伝統文化が息づく成熟した都市像である。一律の規制によるまちづくりではなく、地域ごとに地区計画制度や京都市独自の地域景観づくり協議会制度などを活用して住民主体で目指すべき、まちの将来像を具体化する取り組みが進んでいる。京都らしさの魅力の本質に根ざす、成熟したまちづくりの胎動であると言える。

3年ぶりに山鉾巡行が復活する祇園祭の準備も着々と進んでいる。196年ぶりの鷹山の復興、そして四条傘鉾では昨年9月に竣工したJR西日本不動産開発ヤサカビルで町内待望の二階囃子が復活する。町衆企業としての相変わらぬ振る舞いを地道に学んでいきたい。

彌榮自動車株式会社（ヤサカグループ本社）不動産事業部次長 熊谷 保  
京都産業大学 日本文化研究所 上席特別客員研究員



【京都市観光快適度マップ】 <https://ja.kyoto.travel/comfort/>  
【京都市観光協会公式YouTube】

<https://www.youtube.com/c/DMOKYOTO>

## コロナ禍で見た留学生の状況

新型コロナウイルス感染拡大の影響で私がビジネスマナーの講師をさせていただいている留学生の専門学校でも2020年度の授業からオンラインとなり、今年6月中旬までその状況が続きました。緊急事態宣言が発令されると学生は全員自宅から受講し、解除されると三分の一または半数の学生が交互に登校してきて教室で受講するという状況の繰り返しでした。我々講師も初めての取り組みで試行錯誤をしながら実施してきました。しかし、もっと大変なのは留学生です。次のような問題を目の当たりにしました。

### ①金銭的な問題

まず、コロナ禍でアルバイトが無くなりました。先に解雇をされるのは外国人です。また、終日オンラインにて授業を受けるため、今まで必要のなかったインターネット環境を整えなければなりません。そこで、入ってくるお金は無くなる、出ていくお金は増えるという状況です。元々授業料もアルバイト代で賄っていた学生が多いのです。そのため、例年になく授業料が払えなくなって除籍になる学生が目立ちました。

### ②受講環境の問題

入学当初はパソコンを持っている学生は一割ほどです。大半の学生はスマートフォンの小さな画面で受講しています。また、ほとんどの学生がルームシェアをしているのです。全く授業に集中できる環境ではありません。

### ③心の問題

長期休暇になっても帰国することができません。また、学校にほとんど行くことができないため友達と会えない、それどころか他府県の日本語学校から移ってきた学生は友達を作ることすら難しい状況です。そこで「寂しい」と言います。

学生たちはものすごいストレスを抱えて過ごしていました。ストレスを抱えているのは留学生だけではなく、日本に来て就労している外国の方々もリモートワークになったり、母国の家族と会えなかったりという状況で心労を重ねています。そこで、そんな彼らに寄り添いたいと考え、心理カウンセラーの資格を取得しました。また、大変優秀な学生でもなかなか就職先が決まらない状況です。

コロナの影響で募集が減る中で日本人学生が優先されます。そこには、雇用側の日本人の留学生に対する理解度が低いことが問題だと感じています。今後日本は少子高齢化で人口が減少していく中で、外国人材の労働力が不可欠になります。そこで、雇用側は「食わず嫌い」から脱却し、外国人材が活躍できる社会にしていかなければなりません。そのために、私も中国で外国人材として過ごした体験と外国人の指導経験を基に、雇用側と外国人材の懸け橋として活動しております。



すみれナレッジ 代表 岡部佳子

## <VEC関西支部 事務局だより>

- ◆ 2022年5月24日（火） ビジネスプラン発表会「LED関西 powered by 大阪信用金庫」が開催されました。今年もパワー全開の10名の女性起業家の発表がありVECも第一回目からサポーターとして参加し応援しております。又ファイナリストの方には「VEC賞」として交流会等でのプレゼン、皆様との交流で今後一層のご活躍をお祈り申し上げます。
- ◆ ベンチャー白書2021年版発売中です。お申込みはVEC関西支部へ。定価5,000円(税別)

<VEC交流会の予定>

・2022年7月22日（金） glafit株式会社 代表取締役CEO 鳴海禎造 様（電動マイクロモビリティの開発・製造・販売）

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部  
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階  
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293  
Eメール shib88@vec.or.jp